

会 議 録

会 議 名	平成28年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課 (はけの森美術館)		
開 催 日 時	平成28年11月8日(火) 18時30分～20時00分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 上原佐世子委員 川崎京子委員 小林正隆委員 平岡良一委員		
欠 席 委 員	(な し)		
事 務 局 員	学芸顧問 薩摩雅登 コミュニティ文化課文化推進係 吉川、永井 同 はけの森美術館学芸員 鈴木、中村		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由	傍聴者数	0人	
会 議 次 第	(1) 展覧会「開館10周年記念 風景への視線—郡山市立美術館所蔵近代イギリス風景画展」の観覧 (2) 事業実施報告等 (3) 意見交換等 (4) その他 次回日程調整等		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	(1) 開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定 (2) 平成28年度年間スケジュール (3) ワークショップ等アンケート結果		

平成28年度 第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成28年11月8日(火)

【山村委員】 皆さん、こんばんは。本日はご多忙の中、お集まりいただき、まことにありがとうございます。ただいまより、平成28年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

次第の1の展覧会の観覧につきましては、もうごらんになっていると思いますので、次の議題に進ませていただきます。

本日の配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【中村学芸員】 こちらのほうから配付資料を確認させていただきます。

まず、今回の企画展のチラシが皆様に1枚ずつあります。そちらはよろしければお持ち帰りください。

それから、資料に関しましては、1、2、3とございます。1のほうは、A4サイズで3ページ、ホッチキスでとめてあります。そちらのほうをご確認ください。それから、資料2に関してですが、A4サイズで2枚、こちらもホッチキスでとめてあるものになります。それから、資料3ですけれども、こちらは、この後、報告させていただきますけれども、ワークショップのアンケートの結果になっておりまして、A4で2枚となっております。もし不足がございましたら、指摘をお願いいたします。

【山村委員】 ありがとうございます。

次第の2の1、既に開催した展覧会、ワークショップ等について、事務局のほうから説明をお願いします。

【鈴木学芸員】 展覧会の報告をさせていただきます。学芸員2人で話すような形になりますので、あらかじめご了承ください。

まず、企画展としては、前回の運営協議会のときに皆様にご覧いただきました「開館10周年記念 中村研一とその時代—笠間日動美術館のパレットコレクションより」という企画展が8月13日から9月18日まで開催されました。観覧者数は、最終的に大人が326人、子どもが210人でした。この展覧会は、前回のときにもお話しさせていただいたんですけれども、暫定予算の影響でチラシの作成ですとか、あらゆる準備がとておくれたということがありましたので、なかなか十分な広報ができなかった。また、夏休みに

始まったということもありましたので、広報活動がうまく行き届かなかったということが、今回の観覧者数の結果につながったのかなと思っています。

関連企画としては、ギャラリートークを8月20日と9月10日に開催しまして、参加者数は、最初は4人だったんですけれども、2回目は12人になりました。皆様の質問などに答え、作品の解説やいろいろお話などもすることができたので、2回とも充実したトークになったのではないかと考えています。

次に、2番目と3番目のイベントに関しては、中村学芸員からお話しさせていただきます。

【中村学芸員】 では、こちらのほうから、イベントについて報告させていただきます。

まず、2の「おはなしのへや」に関しましては、報告させていただきましたので、3の「夏の思い出を描く 水彩を通してアニメーション背景を体験しよう」というワークショップについて報告させていただきます。

こちらのワークショップに関しましては、前回の運営協議会の際に、告知のほうがおくれた関係で非常に人集めに苦労しているということを報告させていただいたんですけれども、鉄矢先生と山村先生にご協力をいただきまして、最終的に8名、大人7人と子ども1人にご参加いただきました。

アンケート結果を見ますと、どういったきっかけでこのイベントを知ったかということに関して、知人から聞いてというのが6人、その他の人に関しましても、先生から聞いてとありましたので、おそらく鉄矢先生か山村先生というような意図を持って書かれたものと思われる。ほとんどの人が口コミといいますか、ご協力いただいたような告知の方法づくりにこちらのイベントを知ったということに関して、そういった意味では、ほんとうにご協力をいただいたことが大きな力になったというような結果になっています。

当日は、講師の牟田いずみさんに、まずレクチャーを全参加者向けに、実際にこのように描きますという説明をしてもらいまして、その後、全員で制作に挑戦するというような流れをとりました。非常に皆さん熱心に制作に取り組まれまして、夏の思い出を描こうということで、いろんな写真を持ち寄ったりですとか、写真に関するそれぞれの思い出を話し合ったりもしながら制作を行いました。時間としては13時から16時という結構長めの時間をとっていたんですけれども、最後のぎりぎりの時間まで皆さんかなり熱心に描かれまして、先に仕上げた作品を乾かしながら2枚目に挑戦するというような方もいらっしゃって、最後まで集中力が途切れることなく制作に取り組んでもらえました。当日の感想

というのを、こちらの資料3の最後のところに自由記入欄という形でつけていますが、その感想を見ましても、これを使ってこの後もいろいろ自分でやってみたいであるとか、こういうような企画で夏以外の季節を描くテクニックを学びたいというような趣旨の意見も見られましたので、全部で8人という参加者ではあったんですけども、皆さん非常に意欲が高く、最後までやってくださるといような結果になりました。

こちらの企画展、「中村研一とその時代」の関連イベントに関しては、以上になります。

【鈴木学芸員】　　続きまして、2番目の企画展として、本日ご覧いただきましたが、「開館10周年記念 風景への視点—郡山市立美術館所蔵近代イギリス風景画展」を10月7日から開催しております。この展覧会は、郡山市立美術館から貴重なイギリス人画家たちによる風景画の作品を特別にお借りしています。観覧者数は、今のところ、大人が619人、子どもが14人となります。やはり暫定予算の影響を受けて、広報物ができ上がるのがちょっとおそかったということはあったんですけども、前回の展覧会よりも長い会期ですが、今のところ、観覧者数もすごく伸びているので、今後もお客様にはたくさん来ていただけるのではないのかなと期待しているところです。

関連企画といたしましては、まずギャラリートークが2回ありますが、10月16日の日曜日にギャラリートークの第1回目を行いました。参加者の人数は8人ぐらいでしたが、充実したギャラリートークになって、よかったと考えています。2回目のギャラリートークが12月14日にありますので、1回目の反省なども踏まえて、いい形にしたいと思っております。

鑑賞創作プログラムのイベントにつきましては、この後で今後開催予定の展覧会、ワークショップのほうで少しお話をさせていただくんですけども、この展覧会のイベントは今のところこういう形になっています。

続きまして、教育普及事業なんですけれども、9月9日と9月15日に笠間日動美術館のパレットの展覧会を前原小学校と東小学校の小学4年生に作品を見ていただきました。小学生よりいろいろおもしろい意見と感想をいただいて、皆さんと作品を見ることができました。

そのほかに作品貸出を行いました。前回の運営協議会するときにもお話させていただいたんですけども、兵庫県立美術館、広島市現代美術館で開催されていた「1945±5年」という展覧会に、当館が所蔵しております中村研一「シンガポールへの道」をお貸ししていました。この作品はすでに兵庫県立美術館より返却いただきました。当館の作品が兵庫

広島に出るようなことがあまりなかったものですから、この機会に「シンガポールへの道」を多くの方々に見ていただいたので、とてもよかったと考えております。

開催した展覧会、ワークショップに関しては以上になります。

—会長到着により進行交替—

【鉄矢会長】 ありがとうございます。今、開催した展覧会、ワークショップ等についてということで、これに関して、何かご質問等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

【山村委員】 チラシなんですけれども、「開館10周年記念」とせっかく打ったので、「小金井市立中村研一記念館開館10年記念」と入れてもらったほうがよかったかなと。

【鈴木学芸員】 そうですね、ありがとうございます。

【山村委員】 こういうのは大事だから。

【鈴木学芸員】 そうですね、一応、館でも確認作業はしたんですけれども、すみません、そういったことに注意が行き届かなかったということがありました。ありがとうございます。

【山村委員】 それから、せっかくなので、今、見てきたことで感じたこと、いいですか。全部バイリンガルにするのは難しいと思うんですけれども、作家名とか作品名ぐらいは、向こうからのデータがあるので、英文があってもいいのではないかと思いました。

【鈴木学芸員】 ありがとうございます。日英バイリンガル表記にしようかとはぎりぎりまで考えていたんですけれども、当館がいつも展示するときに使っているキャプションがあると思うんですが、あれに載せると、文字がとても小さくなってしまったりとか、そういったバランスの問題などもありまして、バイリンガル表記を見合わせました。ただ、少し様子を見て、そういうお声がもしあったら変えようかなとは考えていましたので、今、山村先生からご意見を伺って、バイリンガル表記に修正しようと思います。

【山村委員】 いやいや、ここの方針とかもあるから、ちょっとよく話し合って、やってもらえればいいかなと。

それから、版画のほうも結構あったんですけれども、ターナーとかいろいろ版画が出ていたり、楽しめるんですけれども、あれは原画がターナーで、版刻したのは別の人なんですわね。

【鈴木学芸員】 そうですね、版刻は別の者ですね。そこの記述については、郡山が持っているデータには特に掲載されていなかったんですね。その辺も本来は行うべき……。

【山村委員】 郡山のほうでもわかっていないんだ。

【鈴木学芸員】 郡山のデータ自体、目録等にそういったことが一切載っていませんで、郡山のほうにそこまで確認とかちやんとはしていないということもあったんですけども、版刻は違うことももちろんあると思います。

【山村委員】 多分そうだと思います。

【鈴木学芸員】 パーマーとかはまた別なんですけれども、そうですね。

【山村委員】 あともう一つだけ、キャプションの解説など、みんなつけてあってよかったんですけども、あれはこちらで作成したんですか。

【鈴木学芸員】 私が作成しました。

【山村委員】 ご苦労さまでした。大変だったと思います。

以上です。

【薩摩学芸顧問】 あれは郡山のほうもちょっと驚いていました。郡山では、あの手のものには解説はつけていないそうで、データがほしいと言っていました。

【山村委員】 大変な仕事です。みんな同じ字数でやっているから。

【鈴木学芸員】 ありがとうございます。

【上原委員】 ちょっと前の議事録なんかも読んでみましたら、週5日のほうがローテーションとかいろんなことで回していくのにはいいと書いてあって、笠間日動のときは月、火と休みでしたよね。それで5日間。今のこの展示は月曜日だけですよ。その辺は、そうしなきゃいけないのかなというのが一つと、65歳以上無料という、そういう美術館も見たこともあるので、その辺の市立の美術館は営利、もうけるため、初めからは無理だろうと書かれていましたので、もう少し安くするとか、65歳以上は無料にするとか、何か検討していただくと、たくさんの方に来ていただけるんじゃないかとか、そのように思いました。

【平岡委員（館長）】 開館については、今回、実は準備期間のことと両方相まって、テスト的にやってみたというところではありましたが、ずっとそういう形でいけるかどうかというのは、これからいろいろと試行錯誤していくことになるんじゃないかなと思っています。

あと、高齢者の方の無料の件なんですけれども、お金を取る、取らないの部分も市役所のルールで決まっていて、現在は基本的には有料という考え方になっていて、そういうご意見、来られる方からたまにいただくというのは聞いてはいるんですけども、こちらと

しては、もともとの金額を、もう少し大きいところ、県立とか、国立とか、私立のところと比べて全体的に金額をレベルとして落としているというところもあったりしているので、ご要望はいただいているんですけども、今のところは、なかなか無料までは難しいと中では話しているような状況です。ありがとうございます。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

実際に学芸員が動いて、2日休みと、今回の1回休みと、今、試験的にやってみているという話なので、試験的にやってみている中で、今の感想等をお伝えください。

【鈴木学芸員】 歴代の学芸員も同じだったと思うんですけども、試験的に行った週5日開館のほうが、学芸員が1日重なって勤務する日がございますので、そのほうが、私たちとしては連絡はしやすいと思います。週6日の開館ですと、平日と一緒に勤務する日というのがなくて、そのときに学芸員及び市役所との一斉連絡、また話し合い等が週6日だと難しいというのがありますので、私たち学芸員からしますと、やはり週5日開館のほうがいいなとは思っています。

【鉄矢会長】 連絡漏れとか、お客様へのサービスとか、市への責任ある対応とかがしにくくなる可能性が少し見えたというぐらいで、5日のほうがベターというわけですね。

【鈴木学芸員】 そうですね、セキュリティ的な面からしても、いろいろなことを鑑みても、なるべく学芸員が平日と一緒に勤務する日があったほうがいいと思いますので。

【鉄矢会長】 温度差を全部埋めるためという考えもあり、6日は難しいですね。

【鈴木学芸員】 難しいですね。

【中村学芸員】 市役所は平日をベースにして動いていて、その市役所と連携するという意味では、学芸員が1人しかいないという状態になりますと、来ていないほうの学芸員のほうがどうしても情報から漏れてしまうという状態になってしまっていて、何かがあったときに判断をするというのが非常に難しいところがあります。平日できるだけ学芸員が2人そろそろような日をつくっておいたほうがいいというのは、やってみて痛感するところではありました。

【薩摩学芸顧問】 単純に言って、週4日勤務の2人で週6日あけると、単純計算で、2人が会えるのは週2日になるんだね。

【鈴木学芸員】 そうですね。

【薩摩学芸顧問】 それが大体、土日になる。

【鈴木学芸員】 はい。

【薩摩学芸顧問】 これを週5日にすると、2人が会える日が3日あるわけね。

【鈴木学芸員】 そうですね。学芸員の平日勤務が少ないため、業者さん等の連絡が遅れたり、連絡漏れが起きたりとか、通常業務が滞るということもございますので。

【中村学芸員】 個別の話になってしまいますけれども、例えば鑑賞教室だとか、そういったことで小学校に打ち合わせに行きたいとなると、当然、小学校は平日あいているので、平日に来ている学芸員が1人しかいないと、出られる日がすごく限定されてしまって、小学校に打ち合わせに行こうにも、館を出ることができないという状態になって、なかなかその打ち合わせの日を決められないというようなことが起きたりもします。それ以外にも、例えば急なことがあって、どこかに行きたいとなっても、1人であけ閉めをするということを見ると、外に出るわけにはいかないもので、その日は結局動けずに別の日を調整するということになって、スピーディーに動いたりということはできなくなってしまうというのは問題というか、どうにかしないとということなんですからけれども。

【鉄矢会長】 試験的にやっている今の中間の話聞き、実態を少し踏まえて、美術館の中で検討して上に上げていただきたいと思います。私は思います。

ほかにありますでしょうか。

なければ、2に入ります。今後開催予定の展覧会・ワークショップ等について、事務局から説明をお願いいたします。

【鈴木学芸員】 今後開催予定の展覧会・ワークショップ等なんですけれども……。

【中村学芸員】 時期的なところでは前後しますけれども、まず、次の展覧会に関して、中村のほうから報告させていただきます。

資料2にもあるんですけども、今やっている企画展が12月までで、その後、しばらく休館というか、次回の展示の準備期間に入りまして、所蔵作品展が3月から5月というスケジュールで開催されるという見通しを立てています。時期的にはおそらく3月下旬あたりからというスケジュールになるのではないかと見込んでいますが、3月から5月というところで、年度をまたいで当館の所蔵作品、中村研一の作品を中心としたものを行うという予定であります。こちらのテーマなどに関しましては、決まり次第、報告させていただきます。

次の展覧会の関連企画に関しましては、11月13日のプログラムについて、鈴木のほうから報告させていただきます。

【鈴木学芸員】 「～ぐんぐんふくらむ みる・つくる楽しさ～アート・キューブであ

そば！」というプログラムは、講師が藤田百合さん、赤松千佳さん、妹尾喜久子さんという、えほんとあそぶアートのおうちというユニットを組まれている方に講師を務めていただき、藤田さんたちは、昨年度よりワークショップでご協力いただいております。

アート・キューブは、福島県立美術館と郡山市立美術館が開発した鑑賞用補助教材です。チラシの裏面を見ていただきたいんですけども、ボックス型のものに、作品を見るためのポイントになるような、小さい絵の具のものでしたとか、透明な色のセロファンのようなものとか、こういう人形のようなものとかが収められていて、こういったものを通じて作品を楽しく見たり遊ぶというようなものになっているんです。このような教材があるということ、藤田さんたちと一緒に知ることができまして、実際に今回は郡山市立美術館から貴重な作品を貸していただくので、そういった教材も使って、多くのお子さんたちに一緒に参加していただいて鑑賞と創作を行うという内容です。

次の教育普及事業に関しては、中村が説明します。

【中村学芸員】 では、教育普及事業のほうは中村から報告させていただきます。

まず、①の鑑賞教室ですが、今年度の予定としましては、今回の「風景への視線」の時期に残りの小学校が集中している形になっていまして、11月から12月にかけて、全部で6校が来館する予定です。うち、11月16日と12月9日、緑小学校と本町小学校に関しては、先生のほうから事前授業の希望が出ていますので、事前授業を実施した上で館に来てもらうという方向で考えています。緑小学校に関しましては、事前授業の日程をもう決定していて、15日に事前授業を行って、翌16日に来てもらうという方向で考えています。この内容に関しても、先生と打ち合わせをしまして、ワークシートを見ながら、風景画を見るというのはどういうことか、どういうところをまず見ていけばいいのかというのを子どもたちに考えてもらう、興味を持ってもらうきっかけづくりみたいなことをするというので予定しています。

②の職場体験学習に関しましては、こちらは市内の中学校から、今年は緑中学校と第一中学校から現段階で職場体験学習の受け入れの要望がございまして、1月18日から20日、1月25日から27日のそれぞれ3日間の受け入れという形で承しております。まだ各中学校のほうで希望をとっている形ですので、何人来るか、決まり次第という形になるんですけども、日程は決定していますので、この時期に受け入れをして、美術館でどういうことをやっているかということ、中学生たちにちょっと興味を持ってもらう、体験してもらうということを考えています。あえて休館中の美術館というのが、ただただ閉ま

っているだけではなくて、中ではいろんな裏の仕事がいろいろあるんだよというところをまず体験してもらおうという方向で考えています。

4のその他のところですけども、こちらに関しましては、鈴木の方から報告させていただきます。

【鈴木学芸員】 ギャラリーコンサートを平成29年、来年ですけども、1月28日に行く予定です。本来でしたら、今回郡山展にあわせて行う予定だったんですけども、いろいろ難しくなったということがございましたので、1月28日に行くことになります。内容はまだ未定ではあるんですけども、カウンターテナーとチェンバロによって、貴重な音楽の演奏を楽しめるような形になりますので、楽しいギャラリーコンサートを行いたいと考えています。

今後の事業等に関しては、以上になります。

【鉄矢会長】 質問、意見等がありましたら、よろしくお願いします。

私からよろしいですか。鑑賞創作プログラム「アート・キューブであそぼ！」ですけども、これはどのように伝授していただいたんですか。郡山がミュージアム・キットやっていらっしゃるものですよ。

【鈴木学芸員】 郡山市立美術館とか福島県立美術館のホームページをごらんになっていただくとそういった詳細もわかると思うんですけども、アートキューブという教材があつて、申し出があれば教材を貸していただけるという形になっているんです。今回、郡山市立美術館から作品をお借りするので、特別の機会なので、何かおもしろいことをしたいという話を講師の方々としまして、そのときにこういった教材があるということになって、せっかくだからこのアート・キューブを使って、創作活動ができるのではないかと考えて、今回のプログラムを行おうということにいたしました。

【鉄矢会長】 郡山がある一定のワークショップのストーリーを持って、推奨の何かプログラムを持っているのかなと思って。

【鈴木学芸員】 いえ、そういうわけでは特にはないですね。もちろんこういう教材をつくられているので、それなりにプログラムをいろいろな方々に向けているということはあると思うんですけども、特に今回はそういったものに乗ったというものではないですね。

【鉄矢会長】 済みません、こういうプログラムをつくる側として、はげの森の学芸員が向こうでやっているものを見て、いいと思って、それを持ってきたのか。それとも、何

も見ないで、やっているからというネタでこっちへ持ってきて、こっちで独自にその内容を見てプログラムをつくるということになると、また随分違う温度で、それはそれでいいものなのかもしれないというのが1点。

それから、今、講師ありきで始まっているのか、プログラムありきでこれが始まっているのか。質問の中でちょっと出てきたんですけれども、えほんとあそぶアートのおうちさんにもともとこういうプログラムを頼むということをやっている、一緒になって考え出していくというプロセスを今、とっているのか。

【鈴木学芸員】 いつも当館は、これまでの展覧会でも、例えば、こごうちぶんこの方々にお力をいただいて、ご協力していただいてワークショップなどを組み立てていくということもあったと思います。えほんとあそぶアートのおうちのユニットの方々のイベントというのはお客様からもとても評判が高いのです。ぜひ次もやりたい、次のワークショップも参加したいとか、そういった声がとても多かったものですから、今回も私たちのほうで、えほんとあそぶアートのおうちの方に頼みたいというのがまず初めにあったというのがあります。ただ、そうだとすると、私たちのほうでも、風景画をもとに、どうやって風景と子どもたちをリンクさせるプログラムをつくっていくかについて、かなり綿密に議論を重ねてきましたので、もちろん私たちのほうで自発的な動きをしています。

【鉄矢会長】 安心しました。学芸員のほうが主体的になっているという、それでこれらの人たちがお手伝いしているという、そういう形じゃなく聞こえたので。

【鈴木学芸員】 そうでしたか。済みません。

【鉄矢会長】 それからもう一つ、ギャラリーコンサートの動きは、空間はギャラリーなんですけれども、空っぽのギャラリーでコンサートになるんですか。

【鈴木学芸員】 一応展示をしていない状況の中でコンサートを行うことになるんですけれども、そのときに、いろいろ考えてはいるんですが、例えばパワーポイントなどで中村研一の写真などを出したりとか、安全を確保できるなら作品や遺品を一部置くか、などそういったことを今、いろいろ考えています。

【鉄矢会長】 ギャラリーでコンサートなのか、ギャラリーコンサートなのか。

【鈴木学芸員】 ギャラリーでコンサートです。

【鉄矢会長】 ギャラリーコンサートというと、何か飾られている中で聞ける、すごくリッチな感じがするんですけれども。

【事務局（吉川）】 すみません、そういう感じで開催する予定だったんですけれども、

先程鈴木が申しましたように、諸処の事情で開催できなくなりましたので、でもここは美術館ですので、美術館で音楽が聞けるという雰囲気はそれなりに工夫して醸し出しますので、ご安心ください。

【鈴木学芸員】 いろいろ今、検討中のところです。

【鉄矢会長】 はい、了解です。そのほかございましたら。

【山村委員】 来年3月から5月の所蔵品展のテーマというか、わかる範囲で教えてほしいんですけども。

【中村学芸員】 現段階で考えているのが、この所蔵展が一応、今年の開館10周年の一番最後というところも踏まえて、開館してから当館へ寄贈で受け入れた作品というのが幾つかあって、10年の中で結構数がたまってきたというところもありますので、所蔵作品展のほうでは、改めて寄贈で受け入れた作品を中心に、どういうものが開館してから寄贈でこちらの館に入ってきたのかというところを見つつ、それらの作品を並べることで中村研一の画業も概観していくという形を考えています。満遍なく寄贈が来ているわけではないので、そこはきれいに全部並べられるわけではないですけども、そういう形で、特に市民の方々のそういうお力添えの象徴として、寄贈の作品を見ながら、中村研一が画家としてどういう道のりを歩んできたのかというのも何となく感じ取っていただけるのか、そういう並べ方にしたいと考えています。

【山村委員】 ありがとうございます。

【上原委員】 途中で作品の入れかえなんかはないんですか。

【中村学芸員】 所蔵展は基本的には行わない方向で考えています。

【川崎委員】 中村研一さんの所蔵作品展というのは、毎年必ず1回はやるものなんですか。過去のを見ている、大体1年に1回か2回ぐらいやっているような気はするんですけども。

【中村学芸員】 基本的には、開館以降、当館は企画展と所蔵展を組み合わせる形で年度の中でやっていますので、毎年必ず最低1回は所蔵作品展というのをやっているという形で今まで来ています。ただ、所蔵作品展となると、だんだん新鮮みがなくなってくるといって、それぞれの所蔵作品展の差別化というのがすごく難しくなってくるので、その当時の学芸員が工夫しながらテーマを考えているというところになっています。

【川崎委員】 ギャラリーコンサートとか、こういうちょっとお楽しみの会が所蔵作品展の会期中にあったら、またおもしろいんじゃないかなと思うんですけども。

【事務局（吉川）】 それも今回考えたんですけれども、歌手の方の都合で新春の閉館している時期のお楽しみという形に持っていきました。

【川崎委員】 わかりました。

【中村学芸員】 所蔵作品展のほうは、少しイベント的なことも考えていきたいと思っ
ていて、そこに関しては、次回の運営協議会などで報告させていただければと思います。

【鉄矢会長】 その他はどうですか？

【小林委員】 お礼ということで、いつも教育普及事業、主に学校の子どもたちの豊かな心を育成するということと、美術に関する興味を高めていただけるということで、ほんとうにありがとうございます。感謝を申し上げます。

今回、本町小学校と緑小学校の事前授業ということなんですが、これはこちらを見学するに当たっての前の授業ですよ。どんなことをされるんですか。

【中村学芸員】 今回、緑小学校のほうでまず具体的な打ち合わせを先日行いまして、今回のものに関しましては、イギリスの風景画というところで、少し見るに当たっての知識が必要になってくるというところがあります。美術館に来て作品を見ることの基本的な注意、作品に触らないとか、走らないとか、そういうことに加えて、歴史的な絵画とか、そういったものを見ていくときに、どうやって興味を持ってもらうか。最初のとっかかりがわからないと、ふーんで流されてしまうところがありますので、ちょっと気を入れて、何が描いてあるのかに興味を持ってもらう。とっかかりをつくるというところを事前授業で行いたいと思っています。先生のほうからも、こちらのチラシの一番大きく載っている、この図版の絵が子どもたちにとっては、宝探しの見えていくとおもしろい発見があるんじゃないかという指摘がありました。緑小学校の事前授業では、こちらの絵を中心に、これをワークシートというか作品カードみたいな形にして、この絵に描かれている要素を少し1時間の授業の中で見ていくということをやりたいと思っています。

【小林委員】 どうもありがとうございました。よろしく願いいたします。

【鉄矢会長】 なぜこんな絵を描いたのかとか、誰が描かせたのかとか、いろいろ考えますね。

【中村学芸員】 大聖堂とか、そういう言葉は子どもはまだぴんとこないだろうということでしたので。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。では、3番目の意見交換等に入りたいんですけども、委員の皆様から何かありましたら、お願いいたします。

【山村委員】 学芸を中心とする職員の体制というのは、来年度も今年度並みという形になりますか。

【平岡委員（館長）】 人員体制については、スタートしてからずっとこの体制で来ていてというところなので。

【山村委員】 わかりました。

【鉄矢会長】 1人でも常勤という形になるだけでも、随分信頼度も変わるんだろうなと思うんですけども、それはずっと一番最初からずっと上がっていますし、その一方で、今、少ない人数で頑張れば頑張るほど、できるんだなと思われてしまうのが、ちょっとうまくないですね。

【山村委員】 10周年ですからね。10年ひと昔と言いますからね。

【川崎委員】 大昔の平成15年に出された提言書というのを1回目のときにいただいて、いろいろ読んでいて、ほんとうに昔から予算のこととかは切実なのかなと思っていたんですけども、市民ボランティアの導入及び活用を図るという提言が書かれていて、美術資料や図書の整理とか、受付や監視、事務の補助などを市民ボランティアにやってもらったかどうかというようなことが書いてあって、それをやるとしても、ボランティアの講習会とか指導に時間も能力も必要だと思うんですけども、監視と違って今、館内の方がされているんですか。

【平岡委員（館長）】 今は、受付と監視はアルバイトさんが入っていて、そういう形でやっています。ボランティアはすごくいい面と難しい面があって、登録の管理とか育成とか、そういうところが、お仕事でない分、難しいという話が他館でもあるようなので、こちらとしても、担い手としては期待はしたいんですけども、逆に今、職員本体の体制のほうに余力がないので、そこまで回していけるかというところがあって、提言をいただいた内容としては、こちら趣旨はわかっているんですけども、ちょっとすぐには難しいんだろうなとは思って。私も来る前、思って見ていたんですが、市役所のアルバイトとして来ていただいて、やっていただいているという形です。

【川崎委員】 少しでも学芸員の方の労力が分散して、それで何とか回るのであれば、学芸員の方を増やせないのであれば、何か別の方法を考えないと大変なのかなと思っていたので。

【平岡委員（館長）】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 意見交換、よろしいでしょうか。

では、最後に、その他、まず、会議録の校正について、事務局からお願いします。

【事務局（永井）】 では、日程調整の前に、会議録の校正についてご説明させていただきます。お手元に、前回8月26日と前々回5月10日の会議の会議録の案をお配りしています。かがみ文に記載されていますとおり、訂正などがある場合は、お手数ですがコミュニティ文化課に11月25日までお知らせいただければと思います。期限までにお知らせがない場合は、訂正なしとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。皆様からの訂正を反映した上で、会長一任扱いとして事務局にて確定させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。この会議録は確定後、市のホームページに掲載されますので、あらかじめご承知おきください。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 会議録については、今の説明のとおりよろしくお願いいたします。

続いて、次回の運営協議会の日程について、ご意見ありますでしょうか。

【平岡委員（館長）】 私のほうでいつも出だしは予定のほうを申し上げているので、発言させていただきます。例年ですと、2月上旬ぐらいというのをいつも予定しているんですけども、4年に一度の市議会選挙の関係で、こちらのほうで議会のスタートが約1カ月ぐらい早まってしまう状況がありますので、もし可能であれば、1月中旬ぐらいでお願いできないかというところなんですけれども、一応候補として予定を申し上げますと、1月11日から19日まで、ないしは1月30日の月曜日から2月7日まで、このあたりで皆さんのご都合はいかがでしょうか。

—調整—

【鉄矢会長】 では、2017年1月31日、18時30分から、はけの森美術館で運営協議会を行います。

ほかにございますか。

なければ、以上で、はけの森美術館運営協議会を終了します。

— 了 —